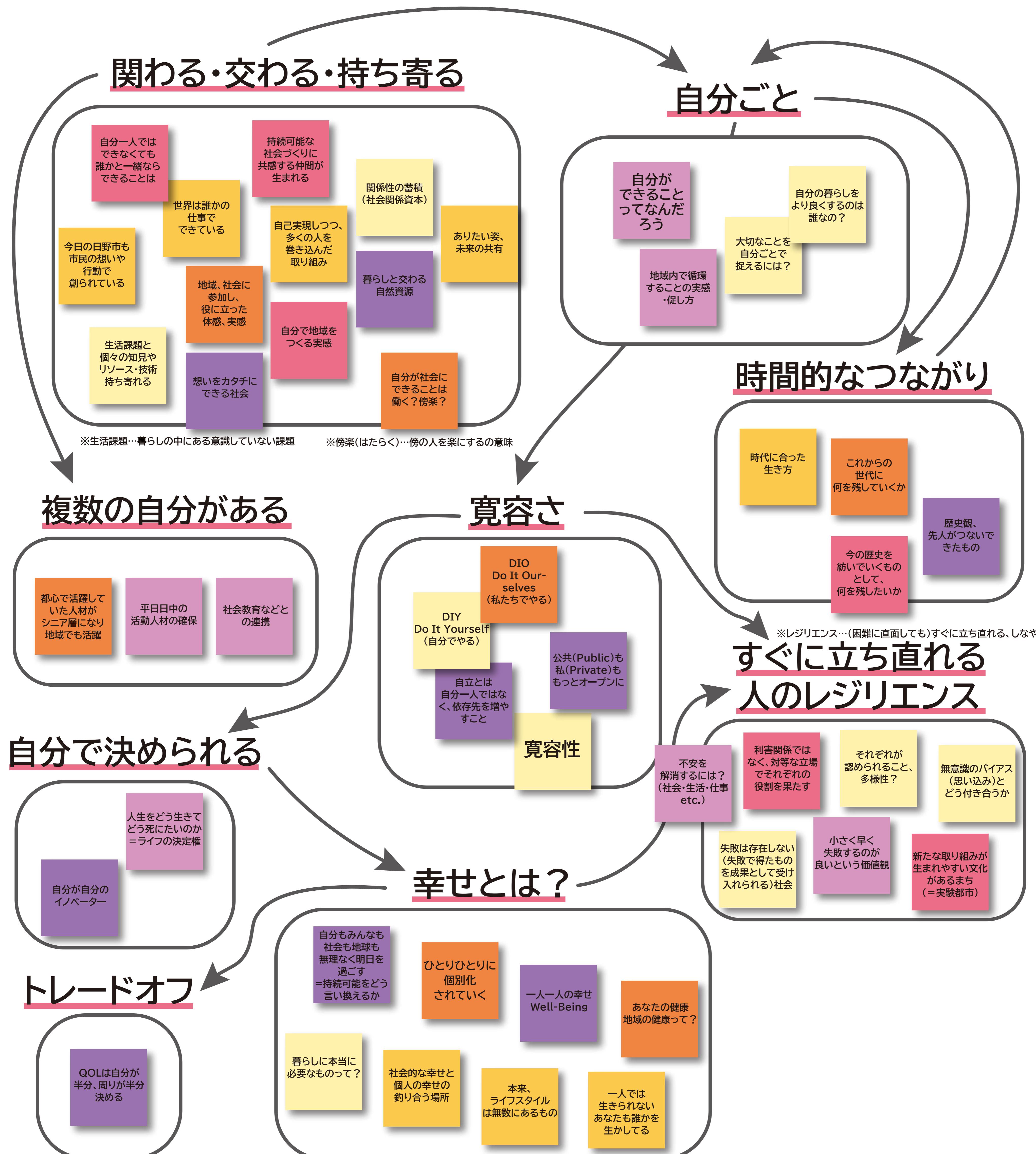


1. 2030年に向けたコンセプトのアイデア・まとめ



2030ビジョンを考えるにあたって、職員有志でたたき台となるコンセプトを作成しています。このシートでは、現在行われている事業や計画、さまざまな人の声をベースとしつつ、全体を俯瞰した時に、2030年の日野にとって重要だと考えるキーワードを抽出しています。ぜひ、付け足しの意見や共感したポイントなどを教えてください！



- 市民目標としてもそうだし、自分で理解して説明できるようにしたい
- 「つながりが必要」というが、普段仕事をしている中で、自分ひとりだと地球のことや地域のことは考えない
- つながりを実感してもらうために何が必要だろうか?なぜつながることが必要なのだろう?
- (つながりの議論)自分も他人も、一人だけでは生きられないからではないか
- (意識していないが)自分の生活をよくするために人の力(サービス)を借りている
- 自分も自然と誰かに関わっているし、関わらないで生きるのは難しい
- ボランティアだけではない、もっとゆるい地域や社会への参加があっても良いのでは?
- 自分と他人のつながりが断ち切ることができない中で、自己実現とまちの実現をどう図るか。
- 自己の要望・要求があっても、社会的・道徳的に見て「これくらいいいか」と自己解決することも必要なのでは

- 未来に自分がどうなっていたいか
- 一人一人の幸せは違うし、個人化されている
- 失敗しても許される、生きられる
- 自分も色んな人に出会って日野が好きになった
- 市民や職員も日野のことをもっと知ってほしい(体感できることが大事)
- ワークショップなので不安をあげてもらうのはどうか、解消してもらいつながら
- 社会の課題はわかるが、イコール個人の課題にはならない
- 自分で何か変えていく、自立できるには?
- (自立の議論)自立とは「一人で立つこと」だけではないはず

2. “これまで”と”これから”的視点の組み合わせ



これまで日野市は「2020プラン」を推進してきましたが、10年以上経過する中で新たなテーマを盛り込む必要があります。“これまで推進してきた視点”に、「1.2030年に向けたコンセプトのアイデアまとめ」において、職員有志の中で共感すると思った4つの付箋が示す内容を吟味し、2030年に向けて必要となる視点として文言を整理した“からの視点”を掛け合わせ、ビジョンに盛り込む視点を検討しました。



日野市第5次基本構想・基本計画

2020プランの7つの柱



自分もみんなも
社会も地球も
無理なく明日を
過ごす
=持続可能をどう
言い換えるか

寛容性

能動性を育む
寛容さが重要に

自分が
できること
ってなんだ
ろう

個は受け手
だけではない

ひとりひとり
に個別化
されていく

最適化は
どんどん進む

自分もみんなも
社会も地球も
無理なく明日を
過ごす
=持続可能をどう
言い換えるか

私一人ではなく、
“私たち”が重要に

1. 参画と協働のまち



一人、一人が
尊重されて
生き方を選ぶ
のが許される

一人でできない
ことは
みんなでできる

自由に発言
ができる

自分ができない
ことは誰かが
補足する

選ぶことができる

誰かのおかげで
わたしも幸せ

2. 子どもが輝くまち



社会的弱者
がいなくなる

成長に必要な
要素が十分ある
(愛情・学問・
芸術・人権etc)

子育てのサポート
切れ目ない支援

ユース世代が
「守られる」
だけではない

親世代を
超える
(連鎖しない)

高齢者でも
自分ができること
ができる

3. 健やかでともに支え合うまち



お互いの違いを
認める

健やかか
どうかは
自分で決める

健康など自らの
リスクは自身で
知りて判断

体だけでなく
メンタルもケア、
外部からの
サポートもある

脅すだけでなく、
プラスの感情の
スイッチを押すこ
とで運動をするよ
うに

みんなで
健康を目指す

4. 日野人・日野文化を育てるまち



文化を学ぶ機会が
公正にある
・体験できる

地域だけでなく
世界の文化を
学ぶことができる

モノの豊かさでは
なく心の豊かさ

”今ここ”も
”いつでもどこで
でも”
大事と思える

実践・経験できる
フィールドの
確保が難しい

5. 自然と調和した環境に優しいまち



自然を
うまく使って
生きる

緩和だけでなく、
適応の視点

無理しない生活
丁寧な暮らし

環境資本と
人など別の資本が
つながっている

感謝と畏怖を
忘れない

自然科学
社会科学
人文科学
のバランス

6. 安全で安心して暮らせるまち



環境変化に
みんなで
適応していく

法を犯さなくても
良い状態を
つくる

何か起きる前
に力を合わせて
準備

社会との関わりの
中で自立、
立ち直れる

迷惑を学ぶ

7. 地域の魅力を活かした活力あるまち



一人のチャレンジ
ではなく、
仕組みが大切

公平だけでなく、
選択し集中する
ことができるか

いつものメンバー
から抜け出す

やりすぎない
他人が関与できる
余白が大切

人が減るからこそ
域内での活動を
しやすく

成果や課題を
囲い込みしない

ほかにも、
こんなことが
話されています。

- ナッジなど危険性や機会損失を伝えながら脅すことで行動を促す仕組みがあるが、危機感だけでは動かないのでは
- 危機感以外のプラスの感情、例えばモテたい・キレイになりたいなどの方が人間的、自分ごと化されている
- 自ら学ぶはキーになるかもしれないが、何があると学びになるのだろう?
- 感情が動くときに学べたという喜びがあるのでは
- 楽しさ、悔しさなど実体験をもって体験できる時も重要では
- 2030年、2050年に向けて、どんな人が育つとよいのだろうか
- 健康に関しては、人間としての健やかさを目指せる仕組みがあることは重要
- 仕事や人材の面では既に人手不足感がかなり強いので?どの組織も大なり少なり無理している
- 続けること、継続率の視点がより重要になってくるのではないか

- 今後、仕事をしながらケアする人が家庭内に増えてくるのでは
- プロへの支援だけでなく家庭でケアする人をケアする視点が重要になってくる
- さまざまな居場所が必要といわれるが、居場所をつくることが目的となりやすい
- 居場所も含めてメンタルケアとして包括的には捉えていくべき
- 大きな変化は止められない、止めようとする場合のコストが課題となる
- 環境面や社会面の変化に対して適応していくことが重要